

司令官



参謀



副官



軍

第...

大正三年十一月五日於基隆

新高艦長小林所藏



清十一

海軍軍令部長島村速雄殿

書類提出件

戦時日誌

但第三 自十月一日 至十月五日

右提出ス

別紙壹部添

壹部

昭和二十八年十一月

0499

戰時日誌 第三

十月一日 木曜日 晴

三三・四八・五五
一九・二〇・東

氣圧 低 五〇・二三 氣温 高 七四 風向 偏北 風力 四一

午前六時出港 鎮海 瑤々 向ク 昨三十日 東 陰 寒ナリシ 天候モ 今朝 殊
漸時 恢復シ 天氣 快晴トモ 唯々 偏北ノ 強風 未タ 衰減セズ 朝鮮
海峽 於テ 南風 波強ク 業方 多来レリ 少子リ 亦大ナク 感ジタリシガ
午後 至リ 平穩ニ 飯ス 但レ 少子リ 亦タ 失セズ

午後六時五十三分 縣洞ノ 入港 投錨ス

- | | | | |
|-----|-------|----|----|
| 山深堂 | 北十二度西 | 水深 | 七尋 |
| 杉島頂 | 北八度西 | 老實 | 坑 |
| 前山頂 | 北十度東 | | |

第一戰隊(金剛、笠置) 在泊
旗信、其艦、本日附離五洲隊ニ 編入セシ

入港後第一艦隊司令長官より左、訓令。按ふ
第一艦隊機密第三六四號

小林新高艦長訓令

大正二年十月一日
於鎮海海軍艦艇隊

一、青島港上海間、獨海底電線ヲ領スル爲メ陸軍より小笠原丸ヲ派遣シ一端ヲ房山灣ニ揚陸シ他端ヲ我長崎上海線ニ接續セシメトナリ同船十月五、六日頃長崎發上海ニ向ヒ後房山方面移リ十五日頃ニ奉ラシテ豫定ナリ

二、其ノ艦小笠原丸ト直接協議上便回出港シ同船上海方面於テ作業中其ヲ擁護ニ任スル要スルニ同船出港前長崎ヨリ回航スルヲ得

三、其ノ艦本任務終了ト同時ニ本職ヲ指揮下ヲ離シ自後第一艦隊司令官ノ命ニ依リ行動スベシ

出勤、期日及任務終了ノ時機等豫定スル其ノ都度報告スル

第一艦隊司令長官 加藤友三郎

右訓令對本艦行動豫定左ノ通り決定ス

一日 整度射撃

二日 午後鎮海突長崎回航

四日 長崎着小笠原丸ト候議

五日若クハ小笠原丸ヲ伴ヒ長崎突揚子江口向ク

傍度電報

一 若宮丸ヲ佐吉係鎮守府參謀長ハ

今朝機械水雷・罹レ入渠修理ヲ要ス……アリ佐吉係ニ

送ル準備アリ名換等箇所ハ右艦後部ニ四ノポートレニ五

ノポートレ……ヲ生シ機關故障(?)……トモ應急修理ヲ

加ハ六海軍ノ航行ニ差支ナク見込ニ艦隊機密第ニ號

ニ第ニ艦隊司令長官ハ

十月百附近、通り戦列部隊、編制及改定セリ
以下本父署(九月二十八日執事参照)

~~備録~~

三第一艦隊参謀長、第三艦隊参謀、

軍令部長、訓電ニ基キ沖繩九橋獲ニ關シテ通り新

高艦長ニ訓令セリ、御承認了也

一以下署(前記第一艦隊機密第二六四號ト公文)

四二隊機密級第一二號

弘養丸、掃海作業ニ従事中一日午後二時レドボク、南

方約一鐘ヲ機械水雷ヲ拘束シ陸軍ヲ屢分隻行中

ワオトポイント、南四度西二四度ヲ他、機械水雷ニ罹リ

沈没死傷者、今迄報告了リ、戦死ニ(三)軽傷五ナリ

第二艦隊司令長官

西第ニ前遣技隊司令官宛 軍令部次長ヲ

一〇荒木發電ヲタヒテ總督公電

シヤルンホルスト「クナイゼナウ」九月二十四日石炭運搬船一隻

ヲ伴ヒソサイエナ「島首府沖」現シ拂曉前「ゼー」(佛

巡洋艦ヲ撃沈シ市街火半ヲ砲撃破壊シ夕刻止業ニ

向ヒ去ル

十月五日 金曜日 晴 鎮海灣

氣圧 低 1013.3 氣温 高 25.5 風向 午後南東 勢 1-2

昨日復領セル第一艦隊機密第ニ六四號ニ基キ第三艦隊

司令官宛左ノ通リ電報ス(午前十時事務電)

第一艦隊司令長官ノ訓令ニ基キ小笠原丸掃蕩ノ為メ

本月五、六日燧同船ヲ伴ヒ長崎出港該任務終リ次第

佐古保へ回航俾當番補充復水鬼水压検査鑑用部

0504

掃海ニ四日ヲ要ス右結了上御指余ノ場所ニ四航ク

今時ニ小笠原丸船長宛左ノ通リ打電ク

本艦貴船掩護ヲ命セリ四日正午頃長崎着上御憐

議ク

又第一艦隊司令長官宛小笠原丸掩護ニ關シ行動豫定
左ノ通リ報告ス

小笠原丸掩護ニ關シ行動豫定ノ件

第一艦隊機密第一六四號御訓令ニ依リ来リ昔年後鎮海

癸四日正午頃長崎着上小笠原丸船長ト相談ニ遂ク

先上同船ヲ伴ヒ出港ノ豫定ニ有之候

右報告ス

午前九時出港鎮海湾整度射撃場ニ回航今十時四十分
浮標ニ繫留ラリ

午後一時三十分射撃開始今二時七分右舷側射撃ヲ終リ
 緊留換ヘテ今三時二十分左舷側射撃ヲ開始シ今三時四十
 七分射撃全部終了射場諸設備ヲ撤去縣河面航今六
 時五分收錨ス

錨位
 山 桑壺 北十九度西 水深 七尋
 松島頂 北八十三度西
 前山頂 北十二度東 有嶺 沈

第一戰隊(前日令)第一水雷戰隊在泊

午後一時三十分第三艦隊司令長官ヲ在泊ノ電令ニ接ス

一其艦第一艦隊司令長官訓令依リ電線布設船
 檢護ノ任務終了也便軍地ヲ炭水補充上馬公ニ

回航ス

一行動ヲ豫定セテ報告ス

十月三日 土曜日 晴 縣河

氣圧高^{三〇・三三} 氣温^{二九} 湿度^{八二} 風向^{午後無風} 風力^{〇・一}

艦内火掃除 防火教練

午後。時三十分第一戰隊出港

午後長崎方面へ出港（原速十節）

夜間哨戒徒前通り

午前七時四十分第三艦隊司令官より左通り電報（無線）轉す

春日より電と午前六時暴降に向と揚子江口沖霧

右電報依り更に暴降免事三艦隊司令官へ左通り電報す

本艦復水器構造上薄弱漏洩を恐り此際水圧検査

を要し小笠原丸機護任務終次舟位を係二回航軍帯

を補完右検査四日間を要す御承認置るを此期間隨

由却掃除を係を行つ佐吉係務時日確定を邊り報告す

備案を附録

傍受セル電報

一 第二艦隊司令長官より第一艦隊司令長官へ

廣隊本作戰中内地港湾碇泊中外行動区域如何

ヲ問ふ事此十月六日午前零時より西郷標海時ヲ使用ス

二 大海報九十二號

第一艦隊及第一水雷戰隊十月下旬迄佐古保方面ニ在リ

行動スルヲ得

三 松村第一南遣支隊司令官宛 軍令部次長ヨリ

大海令第三四號訓令

(一) 十月首察獲ヨリ敵艦ヲシヤルシホリストトクサイセナリトハ

輪炭船ニ復シ付ヒニ千音ソサイエケル島ヲ砲撃スル後

其ノ跡跡ヲ略ス

(二) 廣隊司令官到着後敵主力ノ行動尚不明ニ場合

淡

於テノ麾下巡洋艦於テ先ツ速カニモラカバツト及ビ

ハレシ海方面巡邏セシメテ敵艦ヲ一獲ルテ安ク且ツ

英國支那艦隊ト通信連絡ヲ保持スルヲ計ルヘシ

四、松村第二南遣支隊司令官ハ 軍令部次長ヨリ

(一)一五號 百山梨發着

敵ノ主力新情報ニ依リ英國豫州艦隊ハラウナ(?)

(一)一六號 荒木發着「オストリヤ」官憲ヨリ電報

船「アイリス」ニ無線電信ヲ裝載シ船名電符海

軍用「N.Y.L」高用「M.N.I.T」定ム

五、二隊機密報第十六號

三十日午後一時三十分艦沖島崎中火公島觀測所

「地点」海岸。機密水雷爆発、如キ果煙ヲ起シ

0509

起ハテ一日又地点ヨリテ天丸監督官 J. J. N. S. J. J. J.
ノ銘不枚命海標ニ三四(?)及水坑等ノ漂流スルヲ收得
多ク陸軍ニ三寸同時刻頭火埠頭沖合ヲ一艦形ノ爆
沈セシク認メタト云ク是等ヲ綜合スル敵ノ艦船一復爆沈
光下確實ナルカ如シ
晋山田大尉大尉中尉ニ號飛行機ニ搭乗青島港上
ヲ飛揚偵察飛行機格納所モルトケ南兼ノ繫留球
及總督官廳ニ爆彈投下セシニ熟シテ附近ニ落下爆
裂アリ又湾内ニカイヤリテ于ガ火及一復火塔西方ヲ游弋
中ニシテ認ム

十月四日 晴 長崎

氣圧 20.0, 20.0
氣温 20.0, 20.0
風向 半東風 1-2

陸軍長官衛生部誌

午前十時五十分長崎入港四番浮標。繫留
入港後小笠原丸在泊セザリシヲ以テ長崎郵便局長ニ該
此ノ行動ニ関シ問合モ所在通リ回答ニ接ス

大正三年十月四日

長崎郵便局長

新高艦長殿

小笠原丸ニ関スル件

本船入港ニ関シ公式ノ通報ニ接ス莫得共同船長ヨリ
其ノ留守宅ニ宛テ電報信ニ依テ本月六日入港豫定ノ趣
ニ有之候高御照會ノ次第ニ相是謝崎無線電信局長、
今聞合モ電報照合致置候付到明次第更ニ通報
可致存不取敢一應及回答モ也
又本艦隊司令長官宛テ通リ電報

小笠原丸在泊セサル故當地郵便局長へ問合セテ所全船
伊豆沖ヲ暴風遇ヒ附近ニ避泊シ私信ニ依テ六日頃入港
スルナラント云テ今潮岬へ入港期日問合セ中判明次第通
報スル筈

又在港第十一艘隊司令ヲ存信號通告ニ接ス

大坂毎日新聞靜岡電報ニ依テ小笠原丸ハ三十日横濱出
帆長崎ニ向ヒ伊豆沖航行中暴風遇ヒ損害ヲ受ケ二日
朝江尻入港ス

此報郵便局長ヨリ更ニ在ノ再牒ニ接ス

小笠原丸ニ関スレ件

右ニ關潮岬局長ヨリ左記ニ通回答有之ル遺憾確報ヲ
得ス候間右御了知相成度候

三月午前八時吉沖通過出佐沖ヲ在テ貴地而喚呼スモ答ナシ

0512

傍受セシ電報

第一艦隊司令長官へ 野島より電

(一) 我軍軍行動に對し庸地々未々何等の支障ナシ

(二) 濟南獨逸人の屋敷賣却續々上海天津行きあり

今地ノ輿論ハ排日色彩正モ猛烈ナリ

(三) 四五日來即某等より當地へ電信郵便不通傳機保護

為ノ我軍ヲ抑留シ居候ナリ

第二艦隊司令長官へ 第三艦隊司令長官より

第一南進支隊第三四報告 Skoell 一日午後發電

支隊三日前 Humberg へ 函、濠泊給炭後同夜出航

有百 Hagan 島 Hilla 島方面、索敵ヲモモ何等實

状ヲ認メス 明日………二平、再………、午後四方面(?) 出航五百

ノテ……… Hagan 島ニ出現レ同方面ニ於テ

Kanda (Kakko) 至二軍事的設備、破壊ヲ行ハシメ爾後ノ
行動ニ付テハホク決定セザルモ (2) 至二幸同島支隊ノ
根據地トモシ、ナリ濠州艦隊トホク通信連絡ヲ見ス
同下ニテカニル方面ヲ策動中(2) 風西ニ遺フニテ屬々ナリ
又不定ノ潮流アリ晴礁ノ位置確實ナラス加ケレニ天候
以下不明

三、大海情報九十七號

NO. 97 無線電信八月十日英國艦隊ヲ破壊シモ其後
是ノ架設シタニ知テト英國支那艦隊司令長官ヨリ
告知アリ、敵使回國島ニ至リ敵通信機關占領ナリ
四、松村第二南遣支隊司令官、軍令部長ヨリ電取次、二七號
在英武官系電九月二十九日横濱巡洋艦ニ復給英船ヲ
伴ヒサモア群島ツツイラ島沖ニアリト情アリ、英國軍

令部同方面、素敵スル英、國濠洲艦隊、訓令等

十月五日

月曜日

曇少西

長考

氣圧 1015
30.9

氣温 26.9
65.5

風向 北東

風力 0-2

外艦手入

午前小笠原丸入港、令船長及通信技師乗艦、令船作業

檢査、関ヶ原定ル所左、如シ

小笠原丸檢査、関ヶ原件

一、出港時日豫定航路及速力

十月七日午後六時出港 原速力 十節半 豫定航路別表一、如シ

二、檢査ノ方法

往復航路、本艦、後尾壹千米以内、在リ、續航ス、但、時宜

候、在、問、本艦、小笠原丸、前、方、四、五、里、進、出、ス、可、ク、也

原艦、原丸、作業中、十、里、以内、海面、在、リ、監視、檢査、ス、時、宜

0515

取リ尚遠隔スレテイレレ

三、通信

無線電信 函國船舶信號 手旗信號 取リ尚遠隔スレテイレレ
曩ニ沖繩丸ノ用ニモテ取リ用ハ尚別表ニテ臨時規約信
號ヲ設ケ

無線電信呼出符

新高

小笠原丸

(二) (キ)

四、雜件

(イ) 本航海中夜間小笠原丸ニ航海用諸燈ノ外諸燈火ヲ隱
一滅セシム

(ロ) 作業中天候具他ノ事変ニ際シテ小笠原丸ノ避難地ヲ
馬鞍島トシテ問本艦ニ適宜ノ行動ヲテス

別表一

日時	目	標	方	位	巨	変	針	路	航	事
	出港針路	適宜湾口向								
	松島	北			0.8		北五九西			
	伊豆島燈台	南			1.0		西1南			
	黄島	北			2.0		西			
	大瀬崎燈台	北			6.0		南七六西			
	北島南									
	一般航路前航路ノ探ル									

0517

別表二

本艦小笠原間、臨時規約信號、予沖繩丸掩護、際制定
（九月五日誌参照）

附録

小笠原丸作業豫定

十月七日夕刻 長崎發、沙尾山島ニ向ク

九日午前 沙尾山島附近着、獨領海線採線、切断

九日午後 沙尾山島ニ向ク

十日前 沙尾山灣着

十番 追工事

碇泊陸上設備

沙尾山島附近ニ向ク

十八日午前 今地着 接續作業

今日午後 房山向ヶ發

二十日午前 房山着 最終試験

二十日 探線引揚(本線、青島より北東方面ニ至ル)

二十日 料揚工事

二十日頃 火運降、炭水補充(爾後、黄海方面作業)

南第一艦隊司令長官宛左通り電報ス

小笠原丸今朝入港、今船長、復議セシ、今船作業ハ長

期ニ涉リ、廿日、當地發九日午前、房山島附近ニ達シ、獨鎮

海峽、探線切斷、今日午後、房山灣、南ニシテ、廿日

廿五日迄、各方面、作業ヲシ、十六日、再々、房山島附近、向

ヒ、十八日午前、房山島、探線ト長崎、上海線ト、接續作業

ヲ行ヒ、今日午後、房山島、ニ、二十日午前、房山島、着、最終試験ヲ

本作業ヲ了リ二十日ヨリ青島芝罘間ノ電線探線引揚
等ニ従事シ二十日頃大連ニ赴キ豫定ナリト云ク右ニ依テ上海
方面作業ノ前後ニ回ニ海ノ御訓令ニ對スル本艦機護任
務ノ終期及限更ニ並ニ第二艦隊ト房山方面ニ於テ任務機護
等ニ関シ御指示ヲ受ケ

此夜第一艦隊參謀長ヨリ左ノ照電アリ

艦隊任務都合モテト小笠原丸上海方面ニ於テ作業ハ
第一着ノ一回ニ取リ纏リモテ終ラズルノ方法ヲ講スル様合船ト
候儀アリタル迄

傍受セル電報

第一艦隊參謀長ヨリ第二艦隊參謀長
來ル旨頃ヨリ小笠原丸ヨリ青島港上海間ノ獨海電
線ノ一節ヲ房山ノ場々他節ヲ我長崎上海線ニ連絡スル付

軍令部長刻々辰り上海方面に於ての作業に對して新高
に撥獲に任せるに令艦上海方面作業終了上直に
佐吉保軍港に赤水補充上馬公に向う等二付き雨後
令艦房山湾方面に作業に關して可然脚配慮りたる
ニ松村第二南遣支隊司令官へ

① 山梨來艦「オーストラリア」「モントカルム」「レドニー」三日
「エニカウシター」駆逐艦ニ隻運送船隊ハ四日「エパール」發
「フレイ」嶋スバニ向う

② 大海情報第百〇號 *Poland Bay R*ニ守備隊員約四
十名を以て家屋ヲ徵發し得り也

0521

十月六日

火曜日

晴 長崎

氣圧 高三〇・二七
低 三〇・一九

氣温 高 八・六
低 六・五

風向 偏北

風力 〇・一

内務油試キ

沖繩丸

午前小笠原丸船長及船田技師等ト會合協議、結果上海
長崎間、電線布設作業終了後、沙尾山島附近ニ於テ
獨領線ト接続工事ニ着手スルモ、差支ナキトナリ談船長ヨリ通
信者ニ會合、変更ヲ電請シ上海方面ニ於テ作業一回ヲ完結
スルニ議決シ、其返電ヲ待ツトセリ

右様議、概要ハ左ノ通り第一艦隊參謀長ハ電報ス

御承電ノ件、前日協議、際小官ヨリモ一回ニテ済マズ様

申込ニ主任技師モ東京ニテ先日會見ヲ告シタル通信
者側ノ作業命令ニ従カシ不得ニ昨日、如ク豫定モ趣ニテ
本朝沖繩丸船田技師ト會見シ上海長崎線第四回ヲ

0522

終ニ沙尾山島附近ニ獨線ヲ切斷シ本邦線ニ接續スル
モ差支ナシトノコトヲ沖繩丸第四回作業ハ十日朝迄ニ完
成ノ善故本艦小笠原丸ハ八日出港シ沙尾山島附近ニ
至リ沖繩丸作業完成ノ報ヲ得テ前記ノ作業ヲ了リ
勞山方面ニ移ラシ全体ノ作業ハ四五日早マリ双方好都合
ナリトノ意ヲ以テ小笠原丸ヨリ本省ニ作業変更命令ヲ電
請セリ茲ヨリ次勞更ニ御通知ス

傍受セル電報

一海公報十八號

南洋方面潛存シ敵艦隊殲滅ノ任務ヲ有ス我艦隊
一部其ノ根據地ノ下認ムベキマールビョウ群島中ノヤリト島ニ
テ陸戰隊ヲ揚ケテ同地諸般ノ軍事的敷設ヲ破壊シ且
武器彈藥ヲ押收シ敵官憲ヲ降服ヲ容レテ同行勳中同

0523

隊、何等抵抗ニ會セズ又島内ニ拘禁中ノ同胞一名ヲ救ヒ出レ
且ツ抑留中ノ英國高船一隻ヲ解放セリ

二、第三艦隊司令官へ

軍令部長ヨリ

左記通牒スルニテ大海令第三二號横須賀鎮守府司令
長官伊知地中將ニ訓令

(一) 其官、軍艦香取ヨリ第一南遣支隊ト通信連絡ニ任
スルト今時ニサイパン島(2)ヲ占領シ之ニ守備兵ヲ送ル可シ
(二) 軍艦香取、給炭セシムル為メ運送船、南航、速次

サイパン島ニ寄港セシムル

三、第三艦隊司令官長官へ

香取、横須賀無線電信所ノ通信ヲ敏治ナラシムル為メ
毎日午前〇時ヨリ二時迄通信省所管無線電信局ニテ
無線電信ニテ通信セサルコトニ主務者間協議済今夜ヨリ

實施する等

四、第二艦隊司令長官へ

大海敵機察第107號

敵、交通ヲ遮断スル為、陸兵約二仟中隊ヲ十月十二日頃

地。一附近ヨリ上陸セントスルノ内議アリ機成水雷、願慮

並ニ上陸地点ニ関スル御意見至急返電アリタシ

五、第二艦隊參謀長へ

肥前八日榎須賀軍港察布哇ヲ至テエストワイモルト港

向テ豫定

十月七日 水曜日 曇雨 長崎

氣圧 高 三〇・一九 氣温 低 七・七六 風向 北東 風力 〇・一

下甲板塗粧

昨六日小笠原丸船長及通信者ト交渉、結果作業豫定

変更ノ件許可セラレタルヲ以テ左ノ通り第一艦隊參謀長宛電報ス

小笠原丸ニテ電請セレ作業豫定変更ハ許可セラレタル付

上海方面作業一回ヲ済ムニトナリ天候異変ナリ期八日

年前出港ノコトニ決定セリ

次ヲ小笠原丸船長ヨリ左記ノ通りニ事施行豫定変更ノ通

牒ニ接シ之旨第一艦隊司令長官宛電報ス

大正三年十月七日

小笠原丸船長 蛸子 康

小林新高艦長殿

陸軍依托海底電線ニ事施行豫定別紙ノ通りニ御座候

余御了知相成度候

(別紙)

陸軍依托海底電線ニ事施行順序及日程豫定表

一 十月八日午前 十時長崎出帆

一 九日午後 十時沙尾山島附近着

但、天候之因、五、浦又、富江ニ避難、上十日朝沙尾山島附近着

一 十日終日 沙尾山島附近出帆、勞山湾ニ向テ

一 十一日朝 勞山湾沖着

一 十四日迄 勞山湾附近ニ工事

一 十六日迄 陸上設備、爲、勞山湾碇泊

一 十七日朝 勞山湾出帆、芝罘ニ至、電線探線、上引

續、二十日迄芝罘方面ニ向テ電線引揚工事

一 右工事終了、次第炭水補充、爲、大連ニ向テ工事済、次第長崎ニ向テ大連出帆

(終)

（按）此所記、在、

0527

十月八日

木曜日

曇少雨

氣圧 高 五〇・一五
低 五〇・〇一

氣温 高 七四
低 六八

風向 北—西

風力 一—三

砲兵部署教育

午前十時小笠原丸ヲ伴ヒ出港沙尾山島附近ニ向テ原速約
十節ニ此ノ日低氣圧日本海中部及ヒ土佐沖附近ニ在リ共ニ
東北東ニ進ム長崎港外ニ於テ北西ヨリ風ニ二三ミテ時々驟雨ヲ
伴フト雲モ晴雨計ハ漸次昇騰ノ模様アリ

午前十時十七分第一艦隊參謀長ヨリ左電報ニ接シ之ノ者小笠
原丸ニ傳達ス

小笠原丸上海方面ノ作業ヲ終リ、岡山灣ニ面テ出港スルト今時
貴艦全船橋渡ノ任務終了ノ下、御承知ヨリタシ

右對小笠原丸ヨリ左照電アリ

沙尾山島附近ノ作業以後、橋渡ノ任務ニ別々ニ繼カレヤ

0528

午後三時五十分小笠原丸ヲ左ノ通り提議スレタラセシテ答レ
大寶彌(五島列島南端)ニ避泊スルコトナ

風強キ爲メ避難セントスニ、彌富江何レヲ取ルベキカ

午後四時五十分大寶彌ニ返泊シ之ノ旨第一艦隊司令長官ニ
報告ス

錨位

福江島(八八) 北

水深十四尋半

瀬(二三) 南東ノ東 秘寶砂

投錨後小笠原丸ト交渉ノ結果明日九日前五時迄港ト豫定ス
午後五時十分第一艦隊參謀長ヲ左ノ電アリ之ノ旨小笠原丸ニ
傳達ス

小笠原丸上海方面ノ作業ヲ終ル旁山灣ニ向ケ出發後ハ
傍ニ戰艦ヲ間接掩護ヲ行リ全船旁山方面ニ於テ掩
護ハ第一艦隊ヲ行リ第一方面ニ於テ航路等ハ直談同

隊ニ交渉スル様計ニシテ

傍受セル電報

一、第一艦隊長官へ

皇后陛下御手製ノ縮帶五。在膠州灣方面、我出征艦隊ニ賜リタル旨、皇后宮大夫ヨリ、通知アリ、誠ニ感激ニ堪エズ、取り敢エズ御禮ヲ言上シ置ケルモ、貴官ハ一同代表、更ニ御禮ヲ言上セラルベシ

海軍大臣

二、松村茂二南遣支隊司令官へ

サイパン島及ヤルトニ特設無線電信局ヲ設置スル件、四日内令券一號ニテ略令

軍令部次長

三、ボルネオ東岸サンダカレ港外ヲ水深三尋ノ石灰礁岩

見セリイナバラ島項ヨリ二度四十五分、北緯六度一分十五秒

東至百十八度九分三秒

四南洋諸島ノ占領ハヤルトノ外廣分發表セサル方針府各部

長編減セサル様注意アリタシ

十月九日 金曜日 晴 大雲浦

氣圧 高 三〇・二九 低 三〇・一五 氣温 高 七・八 低 六・九 風向 北西 風力 二・四

水兵部負部署教育

午前五時出港スル豫定ナリシ由天候未タ今午平穩ニ航セズ由

西方弓時々驟雨ヲ齎シ長崎之ニ伴フヲ以テ小笠原丸ヲ出港

ノ見込ナキ旨申出ス依リ一時出港ヲ見合セ之旨第一艦隊

司令長官ニ報告ス

尚ホ出港時日ノ關シ小笠原丸ト協議ノ結果風波増大セリ

限ル午後五時出港ノトニ協定シ左ノ通リ第一艦隊參謀長

通報ス

小笠原丸、沖繩丸ヲハ〇〇噸近ク小笠原丸故航路ヲ東海

横断の全船に對し航海稍々困難ナルカ如ク今尚復泊中ナレト
モ是レ以上風波増大セキハ今夕迄動ノコトニ候定セリ爲念

午後五時小笠原丸ヲ伴ヒ出港沙屋山島ニ向フ

午後五時五十分左ノ電報傍受ニヨリ小笠原丸上海方面以
後ニ於ケル掩護ハ八雲具ノ任ニ當ルヲ知ル

~~米軍電文探入~~

第三艦隊司令官ヨリ八雲ハ

(一)小笠原丸九日午後上海着長崎上海線上海青島港
線ノ海底電線連結ニ事ニ着手シ十日夕地点「セ」ニ向ケ
發十日朝地点「セ」着豫定ナリ上海方面ノ事中新

高小笠原丸ノ掩護ニ任ス

(二)其ノ艦小笠原丸上海ヨリ地点「セ」ニ至リ間全船ヲ間接
掩護スルヲ任務ヲ有ス

(三) 其艦直々上海に向て十日午後新高ヨリ任務ヲ引キ継キ
小笠原丸此航ノ途ニ就キタル後全船ノ行動豫定ヲ第
ニ艦隊ニ通報シテ敵途ニ就キ齋州島ノ南岸ニ近接セル
航路ヲ段リ十二日夕刻迄ニ佐世保軍港ニ敵着セヨ
敵航ノ際必要ニ應ジ八哩以上ノ速カラ用ヒルコトヲ得
午後九時五分八雲ヨリ左ノ電アリ

貴艦ハ明日何時上海着ノ豫定ナレヤ

右對ニ在通、返電ス

本艦午後九時地点、七、二十日早朝沙尾山島沖着ノ豫
定

本艦海中夜間暗戒從前ノ通りトス
傍受セル電報

一沖繩丸ヲ大瀬局ハ

0533

昨夜半出帆、クーパー、パイ、ニ達シタルモ風浪烈キ爲メ作業見令セ福江ニ向フ

二、稲田技師へ（沖繩丸）

本船モ風波荒キ爲メ今尚チ大寶ニ做泊中小島技師（小笠原丸）
三、海軍飛行航空隊ハ三五兩日青島上敷回偵察爆撃
投下ス六日午後第一戰隊一艦英艦一陸軍陣地砲撃
中、イルカスレセウジンサン、砲台ヲ猛射ス七日午後四時「イ
ルカス」ニ揚ガレル一氣球網切レ青島上ヨリ東南ニ飛ビ我駆逐
隊追航中

七日未明前駆逐隊、潜行セル濟南停車場へ一隊小隊モ正
午着小東鐵道占領……全線復旧恢復迄……候ク
山東線四方驛我軍占領セル青島總攻撃ニ必要アル
武鬼孤山ニ着ク「アルワツ」包圍、獨軍司令官ハ朝九時

正

0534

注

半今地攻撃開始スト發表セルヨリ自耳義政府ハ首府ヲ
オスタントニ移セリ市民多数和蘭ハ遊難セリ聯合軍右
翼ハコセル附近陣地ヲ占領ス

バンクーバーニ日本人ニ百五十我有志者ニ指揮ヲ許セリ

青島獨人ハ日本人ノ降伏ニ來レトシ擬敵ス

四、松村第二南遣支隊司令官ハ

大海報

軍艦及各方面ノ英佛各無線電信局ト

通信ニ英國支那艦隊司令長官ノ定メタル左記呼号符號ヲ
使用レ且ツ右符號ハ差支ナキ限リ南洋方面行動中ノ帝國
軍艦相互ノ間ニテ使用サレタレ英國支那艦隊司令長官

希望ニ對シ合意サレ度シ

左記特別無線電信符號特別南遣支隊伊吹(17QC)
筑摩(QTG)日進(STK)第二南遣支隊薩摩

(S T G) 矢矧 (S V N) 平戸 (V W D) サンダカン港ニアル
 英國軍艦「クリオ」(S Q N)「カドマス」(S P N) 第一南遣
 投隊鞍馬 (J W P) 浅間 (V T Q) 筑波 (D H R) 海風
 (N D K) 山風

十月十日 土曜日 晴 三十一度 東
 二五度

气压 高 三〇・二九 低 二〇・二二
 气温 高 七五 低 六九 風向 北西—西 風力 三—四

艦内火掃除 防火教練 射撃訓練

午前九時四十分八雲宛左ノ通り照電ス

午前九時本艦地点丁五五三五貴艦ノ位置知ラセタシ

右ニ對シ左ノ返電アリ

午前十時本艦ヨ一七〇七午後五時沙尾山島着ノ豫定

午後小笠原丸ト協議ノ上具ノ希望ニ依リ明十一日天明沙尾

山島附近ニ遠スルカ如ク速カラハ遅ニ減ク

0536

午後一時五十分左ノ通り小笠原丸ニ通知ス

海三戰隊ヨリ軍艦八雲貴船、間接掩護ノ爲メ今夕迄ニ沙尾山島沖ニ来リ居ル善黄船、沙尾山島沖作業終了後、沙山方面ニ赴カル、豫定航路ハ第一艦隊參謀長（軍艦周防丸）及八雲艦長へ通報シ置ケリ尚又沖繩丸ニ事カ明日午前中ニ完成スレトシ貴船ハ明日夕刻沙山方面ニ向ヒ十三日朝着、善ヤトモ沖繩ノニ事延引モ從テ貴船ノ行動モ延引スルニ至ルベキ事ヲモ通報

ニ置ケリ

午後二時二十四分第一艦隊參謀長宛左ノ通り電報ニ今時ニ八雲モ傍受スル様通知ス

小笠原丸十一日夕刻迄ニ沙尾山島沖作業ヲ終リ次ノ航路ヲ取リ貴所ニ向テ善黄船、沙尾山島ヨリ針路業束五〇

0537

理ヨ一七。四ヨリ針路正北百二十理地点ヨ一三四ヨリ針路
北々西六。理ヨ一三一ヨリ針路北五。度西一。〇。理ニテ
十三日朝塔避島南方作業地ニ達スル豫定ナリ右砂
尾山島沖作業ハ沖繩丸ノ長崎方面電纜布設ノ間
遭リ故同作業ガ剛十日前中ニ完結セサレ從テ延引
スルコトナルヲ痛念

午後六時八雲ハ沙尾山島着、由傍受
傍受セル電報

一、香取艦長ハ、軍令部長ヨリ

大海機密第一二六號 左、件通牒ス

大海令第三十六號 第三艦隊司令官土屋光金ニ訓令
其官ハ麾下艦ヲ交互ニ呆米島東方海面孤懸シ
第一南越支隊ト通信聯絡ヲ保持シ且マニラ方面ニ

出沒の敵艦、監視拿捕ニ任ズレ松村司令官ニ傳へ
二、松村第二南遣支隊司令官へ

十月十日附特別陸戦隊、編制及其定員ヲ定メラル

第一乃至第五特別陸戦隊、所屬ハ第一南遣支隊
所管ハ横須賀鎮守府

第二特別陸戦隊所屬ハ第二南遣支隊所管ハ佐古原鎮
守府ナリ

定員ハ指揮官少佐大尉、内二、中尉二、少尉一、
軍醫一、主計一、兵曹 内、電信兵二、船匠等亦
子内三、看護手着葎、内一、厨宰主尉、内一、

海軍大臣

十月十日

日曜日

晴

三十一、二十七、七、
一、二、二、一、二、一、八、東

氣圧 高 三、九
低 三、四

氣温 高 七、五
低 六、九

風向 北西、一、北

風力 二、一、

0539

人員調査射撃訓練

午前四時沙尾山島南東方約二十哩ニ遠シ小笠原丸八單
獨作業地点向ヒ今六時ヨリ獨領線ノ探線ヲ始ム是レヨリ先キ
午前三時三十分ニ神繩丸稲田技師ヨリ左ノ電アリ

本日午後七時三十分最終試験ヲ了ス線長四一八海里ニ
六絶縁セメグニヨケレウ一四「マイクロ」

軍艦八雲「昨十日夕刻當地着沙尾山島ノ東方約十哩夜泊
スレヨ見ル本艦「小笠原丸」作業地区附近ヲ游弋哨戒シ天明
ニ至リ八雲ニ接近シ小笠原丸ヲ掩護任務ニ関ス引継ヲ了シ
更ニ附近ノ哨戒ニ任リ第一艦隊司令長官宛左ノ通り電報カ

今朝未明沙尾山島附近ニ遠シ八雲ニ會ス小笠原丸ハ
午前六時ヨリ作業ニ從事シ八雲ニ掩護ニ関ス引継ヲ
了ス本艦敵途ニ就キ差支ナキヤ

右二對レ午後二時四十七分第一艦隊參謀長早左ノ艦受領ス

八雲小笠原丸カ上海方面ノ作業ヲ終リ勞山ニ向リ時概

リ……掩護ニ任スルコト、定メラルモ八雲到着上ノ同艦ニ

掩護ヲ引キ繼キ飯途ニ就キ差支ナシ

依テ午後二時十七分八雲艦長宛左ノ通リ信ヲ照會ス

本艦ノ黃艦カ到着上ノ掩護ヲ引キ繼キ飯途ニ就キ

差支ナキ旨第一艦隊參謀長ヨリ申越セリ今夕迄ニ小笠

原丸ノ工事ガ完成セサレ時如何ナシ、御意見ナリヤ

小笠原丸ハ終日獨領線ノ探線ニ従事シタルモ遂ニ日没迄

拘捉スレテ得ル不得止沙尾山島附近ニ夜泊スル旨申越タル依リ

本艦ニ共ニ夜泊スルコトニ決シ午後六時三十七分沙尾山島並東

ノ東丸、七理水深八尋ノ地ニ夜泊ス

是レヨリ先キ八雲ノ第三戰隊司令官宛左ノ照會ヲ發信（午後

（佐世世ノ石道）

五時四十分)セルヲ傍受ク

青島港線今ニ至ル迄拘提セテ埋リ居ル横楢ニテ小笠原丸本日中ニ結了ノ見込ナレ新高ヨリ引継ヲ受ケ當方面ニ在留掩護ニ従事スベキナリ

右對レ年後七時二十五分第三戰隊司令官ヨリ左返電ヲ傍受ク新高ハ任務ヲ其ノ艦ニ引継キ取途ニ就ク余ヲ既ニ受ケ居ルヲ以テ其ノ艦ハ小笠原丸ノ沙尻山島附近ニ在ル作業中掩護任務ヲ有ク從テ十三日ノ取着ハ延引サレモトス是ニ於テ午後七時三十八分八雲ヨリ左ノ返信アリ

本艦隊ノ電令傍受サレテ通リニ付キ本艦ノ責艦ノ引継ヲ了レ今ヨリ小笠原丸ノ掩護ニ任ズ當方面ハ便宜引キ取ラレタリ以下畧

右ニ依リ午後八時三十分拔錨佐古保ニ向ヒ左通リ第一、第二

0542

艦隊參謀長へ報告ス

小笠原丸今朝未獨領線探線ニ從事セルモ日没迄拘束
スルに至ラ今夜燈台附近ニ夜泊シ明朝ニ事ヲ再斷セシム

本艦ハ八度ニ掩護任務ヲ引継午後九時佐世係三回ク

又佐古係無線電信所ヲ以テ第三艦隊司令官へ左通リ電報ス

十日後九時上海沖祭十三日後佐古係着復水鬼水匠

検査ノ結果修理ヲ要セサレ十八日祭二十日馬公着豫

定

新高艦長

傍受セル電報

一軍令部長へ

第二艦隊機密報第五號

十四日早朝敵ノ飛行機湯河湾ニ来リ我掃海隊ニ

爆弾拾ヲ投セリ我ニ損害ナシ、火崎中尉山田大尉ハ

0543

直々ニ號飛行機ニ搭乗青島港上ニテ諸所ニ爆彈
散仰ラ報ヒ與事致着也

十日午前十一時師團、攻城準備ハ敵砲台、砲火、爲メ
阻障セラル、事大ナリト、報ヲ聞キ直々ニ支動營山灣内ニ
至リ哨艦以下ヲ令ニ掃海隊ハ先頭トシテ

二、大瀨局ハ、小笠原丸ヨリ

本艦ハ明早朝ヲ作業、豫定貴船ノ動靜ヲ問フ

三、軍令部長ハ

第一艦隊機密報第ニ六號

今日迄ニ得タル諸情報ヲ綜合スレハ、コルモランレ及砲艦

ニ隻「ターキー」ハ、膠州灣内ニ現存セサルコト確實ナルカ如ク

以下不明

十月十日

月曜日

晴

三一—四、二、
一五—六、〇、東

0544

清 年

乳吐^{三〇、二六} 氣温^{二六、七八} 風向^{北東} 風力^{二、三}

基本教練（合戦準備 戦闘防火 陸戦隊教練）

午後二時常盤、沙尾山島に向ヒ航行スレニ會ク

午後七時四十分常三艦隊參謀長ヨリ左ノ電報ニ接ス

貴艦ハ馬公到着上對馬ニ代リ呂宋島東方海面ニ

派遣セラル、豫定馬公ヲ清水ノ補充困難ニ付佐世

保出突際炭水ヲ荷載シ南安スル途申基隆ニ寄

港ニ清水ヲ補充シ来ラセタシ

傍後セル電報

一 杓村第二南遣支隊司令官ハ 軍令部長ヨリ

大海令第三十七號第二南遣支隊司令官ニ訓令

日英艦隊ノ行動範圍ニ関シ左ノ如ク決定セリ此旨ハ得ル

一、第一南遣支隊ハ赤道以北東至百四十度以東ノ

（後世保）

0545

区域ヲ巡航シ監視ス

二、第一南緯支隊、北緯二十度以北、東至百四十度以西、區域ヲ巡航シ監視ス

三、英國瀛州艦隊、赤道以南、西至百四十度以西（佛國領諸島ヲ欠ク）、區域ヲ巡航監視ス

四、以上諸艦隊、成ルバク相互間及本國官憲ト通信聯絡ヲ保持シ且ツ互ニ想接シ得ルヤク行動スルモトス

二、艦予（第三戰隊司令官旗艦）ヨリ八雲

一、小笠原丸ノ作業本日中ニ完成、見込ナクハ、常盤ハ沙尾山
島ニ向テ航行ヲ續ケ、明朝八雲ト交代シ、掃蕩ノ任ニ當リ、小
笠原丸北上後、豫定ノ行動ヲ續行スベシ

二、八雲、交代後佐古係ニ般港スベシ

三、交代ハ必スモ、兩艦會合ノ上行ヲニ及ハク便宜西艦ヲ恨

議殿理スヘレ

三、周防ヨリ

明日周防丹後... 舟ヲ改修セシムニ
依リ... 本日地点「七」ニ止メ明日出港セシム 丹後ノ今時刻
迄「エ」外ニ来ラシムヘレ

十月十三日

火曜日

晴

佐古係港外

氣圧高^{三〇・三} 氣温^{七・八} 風向^{北東} 風力^{四一}

砲員部署教育

午前十時第三艦隊司令官ヨリ左ノ電報ニ接ス

春日ヲ率ヒ呂宋島東方海面ニ向テ出港ニ十六日頃飯

港ノ線定

午後〇時五十分第一水雷戰隊、佐古係先港^{ケル}ニ會ス

午後一時佐古係入港十三番浮標ニ繫雷^シ之ノ旨第三艦隊

佐古係

司令官ニ報告スルト今時ニ在リ通リ電報ス

行動豫定中ニ十日早陸着今日夜二十日馬公着ニ改ム
午前十時三十分第一戰隊寺島水道ニ碇泊(現津ハ附近ニテ
艦砲射撃施行中)スルヲ認ム

傍復セル電報

一八雲号擲彈ハ

青島港線埋設シテモト見ヘ未タ拘提ニ至ラズ小笠原

丸今社沙尾山島ニ近ク及詢ク

ニ松村第一南遣支隊司令官ハ 軍令部次長ヨリ

第一三六號ノ百山梨来電

「クリオ」カドマス 駆逐艦三隻十日(二)夕ノハ湾岸ノ

豫定ヲワカサシ海峡ニ向テ又駆逐艦ニ隻交互ハレシ

海峡偵察ヲ始

三、山屋茅一南邊支隊司令官ハ、海軍大島ヲ

南洋諸島中其隊ノ行動上及將來ノ策戦上必要ナル

地也測量ノ多ク高等官四ノ担任官四ノ測量艦八ヨリ

十九測量班ヲ其隊所屬(横須賀鎮守府所管)下

ヲ来ルニ日頃横須賀出港ノ神奈川丸便ヲ派遣ス

派遣期間約三月ノ豫定測量計畫定マラス報

告スベシ

四、軍令部長ハ

十三日兩軍々便會見非戰闘演習ノ細目ヲ約定

セリ退去スル中五國人ハ米國領事一、從僕二非戰

闘員婦人小兒約十、十五日午後二時膠州灣ノ北西

アル(膠州灣南西三哩)ニ着、コトニ決定セリ

尚退去スル人員ハ復ニ無線電信ヲ通報アル事ナリ

五、松村淳二南進支隊司令官へ
貴官の行動方面、水陸二域の軍事調査以外……
方面付とも先來得り火の調査の趣の時の之を報告せん

0550

佐世保市史



0551